

グローバルイノベーション研究院 (GIR)  
ARC チーム (Strategic Research Teams for Advanced Research Careers)  
2026(R8)年度 公募要項

1. 目的・概要

◇目的

本学は「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」(事業期間: 令和 5~10 年度) に採択され、当該事業においては大学ビジョン (研究面) として「国内外大学の『知』を集結させ、世界の『産』へと展開できる世界最高水準の研究卓越性 (基礎研究力) とイノベーションエコシステム (社会実装力) を兼備し、海外有力大学と比肩する大学へと成長する」を提唱し、また、数値指標として国際的研究・産学連携拠点の設置、Top10%論文増加、国際共同研究・海外事業収入増加などを掲げています。

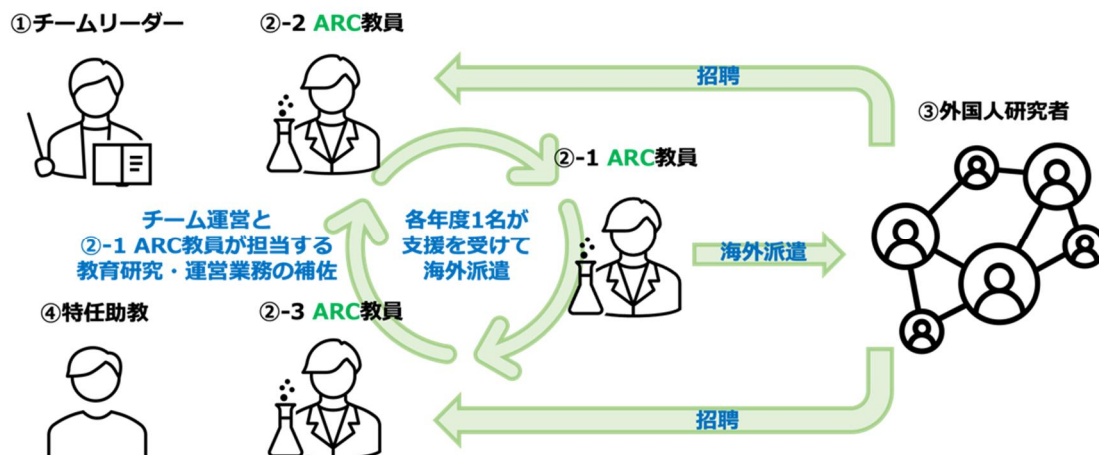
GIR はビジョン実現及び指標達成のため、国際共同研究推進と研究キャリア強化を並行して実施する ARC チームを公募します。ARC チームの目的は下記のとおりです。

- ・サバティカル奨励による**本学教員の研究キャリア強化**
- ・海外の著名な研究者との共同研究による**本学教員のプレゼンス向上と高被引用論文の執筆**
- ・海外の優れた研究機関との連携構築による**将来的な研究拠点構築と頭脳循環関係の萌芽**

◇ARC チームの概要

GIR 戦略的研究チームでは海外から本学への研究者招聘により共同研究推進と論文共著を推し進めていましたが、ARC チームはこれに本学教員の海外派遣を加えて研究活動の高度化を図る取り組みとなります。

本学の基礎研究力強化には**各教員が優れた研究実施環境において数ヶ月単位で研究活動に集中する期間を設けることが不可欠**であり、この為、ARC チームは教員間での相互協力体制により各年度 1 名の海外派遣 (3 ヶ月~1 年間) を行い、双方向交流による**国際共同研究の加速化と本学教員の基礎研究力強化に並行して取り組む**こととなります。



【活動支援期間】 3年間

【チーム編成】

- |                      |    |
|----------------------|----|
| ① チームリーダー (本学教員)     | 1名 |
| ② ARC教員 (キャリア支援対象教員) | 3名 |
| ③ 著名な外国人研究者          | 数名 |
| ④ 特任助教 (非常勤・3年任期)    | 1名 |
- ※①~②は原則同部門内での編成とする。  
業務が補佐できる近い部門・領域同士でも可。

【採択予定数】 合計4チーム  
(R7年度2チーム採用、R8年度2チーム採用)

【支援内容】

1チームあたり年間合計	19,860千円
○海外渡航支援 サバティカル (3ヶ月~1年間) 費用支援	6,000千円 * 1名
○外国人研究者招聘 GIR戦略的研究チームと同様の支援	5,000千円
○特任助教人件費 チーム活動開始と同時に採用	6,860千円 * 1名
○研究経費支援 チームへの研究基盤経費の支援	2,000千円

## 2. チーム編成条件

以下のメンバー①～④を含めた体制を提案してください。ただし④についてはチーム内定後に採用するため、提案時点では特定の個人を編成せず、研究計画等における役割等を記載してください。また、①～④とは別に、チームの研究活動に参画する学内教員を追加編成することも可能です。

### ① チームリーダー 1名

- ・本学の常勤教員で、国際共同研究推進と ARC 教員の研究活動高度化のためのチーム活動を総括します。
- ・特に ARC 教員が海外派遣期間中に研究に専念できるチーム体制構築と運営に取り組み、円滑な海外派遣実施のため、チーム教員と協力して支援対象教員の教育・運営業務を補佐します。

### ② ARC 教員 3名

- ・博士後期課程修了後 20 年程度以内の本学常勤教員（任期付きを含む）で、自身の海外派遣と外国人研究者の招聘を交えて、チームの国際共同研究を推進する者。
- ・各年度 1 名が輪番でサバティカル支援（※各年度 600 万円の派遣支援、詳細は後述を参照）を受け、チーム活動期間 3 年間に於いて 3 名の海外派遣（3 ヶ月～1 年間）を実施します。
- ・サバティカル支援対象外の年度においては円滑な海外派遣実施のため、チーム教員と協力して支援対象教員の教育・運営業務を補佐します。

### ③ 外国人研究者 複数名

- ・卓越した研究成果及び注目度の高い論文執筆に資するため、世界的に著名な外国人研究者を 1 名以上編成してください。外国人研究者については本務先職位と論文実績を鑑みて GIR 職位の審査を行います。（職位については後述の「◇外国人研究者の職位」を参照）
- ・スーパー教授級の外国人研究者については編成を必須とはしません。ただし、可能な限りスーパー教授級を編成することを推奨します。
- ・ARC 教員の海外派遣先の研究者は編成必須です。派遣先以外で本学への招聘のみを予定する外国人研究者も編成の対象となります。

### ④ 特任助教 1名

- ・チーム内定後に選考し、チーム活動開始と同時に採用するため、提案時点では特定の個人を編成せず、研究計画等における役割を記載してください。
- ・GIR 所属で任期は 3 年間（チーム活動期間と同一）であり、チーム活動中に退職した場合は、チーム活動期間の範囲において後任者を採用します。
- ・本学に限らず、国内外大学での博士後期課程修了者もしくは修了見込者（R8. 3. 31 まで）が条件です。
- ・勤務形態は非常勤（フルタイム）で、人件費は GIR が負担します。
- ・円滑な海外派遣実施のため、チーム教員と協力して支援対象教員の教育・運営業務を補佐します。
- ・特任助教の海外派遣はチーム運営に差し支えない範囲で可能です。チーム支援とは別途実施する GIR の若手研究者海外派遣支援制度をご利用ください。

#### ◇既存の GIR 戦略的研究チームとの重複不可

今回の提案内容と、既存の戦略的研究チームとの間で研究者の重複は認めません。提案にあたっては GIR ウェブサイトのチーム紹介ページ <https://www.tuat-global.jp/pr/> をご参照のうえ、ご検討ください。

重複メンバーを含める提案が採択された場合は、R8 年度以降における既存チームからの離脱、もしくは解散することとなりますので、当該既存チームと予め合意の上でご提案願います。当該既存チームは構成メンバーが離脱する場合、計画内容に変更が生じるため、R8 年度の戦略的研究チーム研究計画の修正・再提出をお願いします。

### 3. 研究計画・支援予算

重点3分野（食料、エネルギー、ライフサイエンス）のいずれかにおける国際共同研究を本学教員がチームリーダーとして推進するものです。提案に係る条件は以下のとおりです。

- ・著名な外国人研究者との共同研究により、国際共著論文の増加及び論文被引用数（Citation）の実績向上が見込まれ、具体的な論文執筆目標を設定できること。
- ・チーム内の連携分担により単独教員では達成し得ない規模の研究成果が見込まれること。
- ・チームにおいて研究者育成が重視されていること。
- ・受入研究者（チーム）の研究力があり、研究計画、研究場所、研究資金が充分であること。

#### ◇2026(R8)年度 ARC チーム支援予算

ARC 教員 海外渡航支援費 *1	6,000 千円/年（上限）
外国人研究者 人件費・赴任旅費・滞在費（合計）	5,000 千円/年（上限）
特任助教人件費 *2	6,860 千円程度/年（参考額）
チーム研究基盤経費 *3	2,000 千円/年

- \*1 海外渡航支援の6,000千円は、派遣予定のARC教員の予算所管に配分します。
- \*2 特任助教人件費は「国立大学法人東京農工大学フルタイム契約職員の年俸制に関する細則」に基づく年俸となります。上記は法定福利費等を含んだ参考額で、実際はより高額になる場合がございますが、その場合でもGIR予算で全額負担いたします。
- \*3 研究基盤経費は、年度当初にチーム代表者もしくは指定された教員の所管に配分します。用途については原則としてGIRでの研究活動、成果に繋がる使用目的とし、共同研究、国際共著論文に繋がる教員、学生の出張費については使用可能とします。

#### ◇ARC教員の海外派遣

- ・（再掲）各年度1名が輪番でサバティカル支援（各年度6,000千円まで）を受け、チーム活動期間3年間において3名の海外派遣（3ヶ月～1年間）を実施します。
- ・円滑な海外派遣実施のため、派遣時ARC教員の教育・運営業務を補佐（もしくは代行）するチーム内での協力体制を整えてください。
- ・派遣予定教員の予算所管に配分する予算の範囲（6,000千円）において、旅費取扱規程等に基づいた旅費の支給となります。旅費手続き（概算・精算）は各地区事務部にてご対応ください。
- ・参考：外国旅行における日当・宿泊料定額（※詳細は旅費取扱規程、旅費細則を参照）

日当（1日につき）		宿泊料（1夜につき）	
指定都市 *1	甲地方 *2	指定都市	甲地方
5,400 円	5,100 円	29,000 円	22,000 円

- \*1 指定都市：ボストン、ニューヨーク、サンフランシスコ、ワシントン、ホノルル、トロント、レイキャビク、マレ、ブリッジタウン、ルアンダ
- \*2 甲地方：北米地域、欧州地域、中近東地域で指定都市以外の地域

### 4. 外国人研究者

#### ◇外国人研究者の職位

- ・外国人研究者の職位は以下のとおりであり、後述の職位審査を以て決定します。
  - ①教授（スーパー教授）又は特任教授（スーパー教授）（以下「スーパー教授」）  
：世界的な活躍をする著名な外国人研究者であり、チームの中核を担う者。
  - ②特任教授（グローバルイノベーション）  
：チームにおいて国際共同研究を牽引する、特に優れた知見と高い業績を持つ者。
  - ③特任准教授（グローバルイノベーション）  
：チームにおいて研究推進に貢献する者。
- ・職位審査では当該外国人研究者の本所属大学・研究機関での職位とWeb of Scienceによる論文実績（論文数、被引用数、平均被引用数、H-index等）に基づき、GIR運営委員会が個別に審議します。

◇外国人研究者の来日条件

外国人研究者を雇用・招聘する場合、条件は以下のようになります。また、**本学滞在中に外国人研究者による公開セミナーの実施**をお願いします(複数回来日予定の場合は、1回/年度)。

【本学教員として雇用する場合】

GIR所属教員としての短期間での採用となります。受入教員が所属する研究院を兼務します。

条件：滞日期間(用務開始前日～用務終了日翌日)が、原則**連続31日間以上**。

外国籍の場合、在留資格「教授」もしくは「永住者」を取得していること。

※職員就業規則及び特定有期雇用職員就業規則を適用します。

※本学教育研究評議会での採用結果の審議・承認を要します。

その後、兼務先(農/工/BASE)の運営委員会で兼務の承認が必要です。

職位：前項「◇外国人研究者の職位」に基づきます。

【学外からの訪問者として招聘する場合】

条件：原則、滞日期間が**連続14～30日間**。もしくは、滞日期間31日以上でも本務先の都合等により、**本学職員としての雇用が困難な場合**。(在留資格の有無により条件が異なります)

職位：本学教員としての職位はありませんが、給与に準ずる謝金を支払う場合は、GIR運営委員会で審議・判断した職位相当の金額となります。

【雇用・招聘の条件一覧】

	雇用	招聘 (在留資格あり)	招聘 (在留資格なし)
人件費・謝金	人件費 (給与。社会保険料、所得税、本人・事業主負担等込み)	給与に準ずる謝金 (GIR特別単価)	なし (講演謝金1回分のみ可)
海外からの往復航空運賃 *1	本学負担	本学負担	本学負担
宿泊費	本学負担	本学負担	支給なし (後述の滞在費に含まれる)
日額旅費(滞在中の日本国内旅費)	本学負担	本学負担	支給なし
滞在費	支給なし	支給なし	定額18,000円/日 (宿泊費含む) *2

\*1 往復航空券は、原則としてエコノミークラスもしくはプレミアムエコノミークラスとなります。

\*2 滞在費について、本学職員宿舎に宿泊する場合、宿泊費のご本人負担がない代わりに滞在費は13,500円/日となります。いずれも所得税(20.42%)を含む金額です。

【人件費・謝金一覧】

(単位：円)

	雇用(月額) *1	招聘(月額) *2 (在留資格あり)	招聘 *3 (在留資格なし)
スーパー教授	1,250,000	900,000	37,500
特任教授	1,000,000	700,000	37,500
特任准教授	750,000	500,000	37,500

\*1 雇用の人件費は所得税(20.42%)、社会保険料等を含む金額であり、研究者ご本人に支払われる金額ではありません。

\*2 所得税(20.42%)を含む金額です。

\*3 在留資格なしの招聘の場合、滞在期間にかかわらず、謝金はセミナー1回分の講演謝金37,500円のみ支出可能です。所得税(20.42%)を含む金額です。

## 5. 研究実施期間（チーム活動期間）

活動開始後 3 年度

2026(R8)年度採用チーム：2026（R8）年採択通知日～2029（R11）年3月31日

## 6. 応募区分及び採択チーム数

重点3分野について 2チーム

## 7. 提案様式

GIR ウェブサイトの ARC チーム公募 HP（下記リンク）より指定様式1～3をダウンロードしてください。<https://www.tuat-global.jp/op/tuat/10805/>

(1) 2026 年度 ARC チーム提案書フォーム（指定様式1） : 1 式

(2) 2026 年度 ARC チーム全体研究計画・研究者調書（指定様式2） : 1 式

外国人研究者調書については下記の条件に当てはまる場合は必ず記載してください。

- ・初めて GIR 事業に参画される場合（GIR 外国人研究者として未承認の方）。
- ・GIR 事業に参画した場合でも、当時より変更（機関や職位など）がある場合。

上記条件に該当しない外国人研究者については記載を省略できます。

(3) ARC 教員調書・海外派遣計画書（指定様式3） : 3 式

活動期間3年間における各年度の派遣計画と派遣する ARC 教員について記載してください。

(4) 外国人研究者 履歴書 CV（任意様式）

前述（2）の研究者調書に記載した外国人研究者について、CV も別途ご提出願います。

## 8. 選考・審査基準

採否はグローバルイノベーション研究院運営委員会の審議により決定します。

新規提案書について、以下項目を審査します。

- ・ARC 教員の海外派遣計画
- ・外国人研究者招聘計画と招聘による効果等
- ・チームメンバー（外国人研究者・学内教員）の論文関係実績
- ・研究目的・研究計画・方法
- ・活動する年度に目標とする国際共著論文数

審査において重要視する項目は以下のとおりです。

◇提案内容

- ・世界的に活躍する**著名な外国人研究者との共同研究**であること。
- ・研究体制と内容に実現性があり、**国際共著論文の増加が見込まれる**こと。
- ・研究内容が斬新であり、**社会的にインパクト**があること。
- ・海外派遣により **ARC 教員の研究力強化**が見込まれること。
- ・ARC 教員の海外派遣中のサポートが体制が十分に計画されていること。
- ・**招聘・派遣がチームの研究力向上にどの様に波及するか**明記されていること、及び、その効果を得るために十分な交流期間が確保されていること。
- ・チーム活動により**継続的な頭脳循環に繋がる国際共同研究関係の構築**が見込まれること。
- ・将来的に国際的研究拠点の構築が見込まれること。

◇チームメンバー（外国人研究者・学内教員）の実績

- ・外部資金獲得実績
- ・Web of Science の論文数、被引用数、平均被引用数、H-index

## 9. 応募方法及び期限

◇提出先

研究総括・リスクマネジメント課 研究総括・国際係 メールアドレス [girjim@cc.tuat.ac.jp](mailto:girjim@cc.tuat.ac.jp)  
メール件名を【2026 年度 ARC チーム公募 応募者氏名】としてください。

#### ◇応募期限

**2026年6月26日（金）17時**

※期限を超過したものは無効とします。

※外国人研究者との調整により調書提出が間に合わない場合は別途ご連絡願います。

#### ◇応募方法

上記期限までに「提案様式」に記載の書類をメール添付にてご提出願います。

また、応募する際は必ず所属部門長・附属施設長（以下、「部門長等」という。）の了解を得てください。

### 10. 選考から活動初年度までのスケジュール

本公募の**採択結果については7月末頃の通知を予定**しております。採択通知後、すみやかに初年度海外派遣の準備、特任助教採用公募、初年度の外国人研究者招聘のスケジュール調整を進めてください。

2026年5月	公募開始	
6月	6/26 公募締切	
7月	月末頃 採択・結果通知	
8~9月	採択通知後、海外派遣が可能	<b>【特任助教】</b> 必要に応じて公募／採用面接実施 GIR 運営委員会で採用承認 雇用計画協議書の提出 採用前必要書類の提出 採用開始

### 11. 安全保障管理義務について

我が国をはじめとする主要国では、武器や軍事転用可能な貨物・技術が、安全保障上懸念のある国家やテロリストに渡ることを防ぐため、国際的な枠組み（国際輸出管理レジーム）を作り、国際社会が協調して厳格な管理を行っています。本学では、安全保障管理室を設置し、教職員・学生の国際交流や国際共同研究に支障が生じないように取り組んでいます。

GIR の国際共同研究においても同様の管理義務があり、当該外国人研究者と研究計画について管理ルールに反する内容が無いか、本学の安全保障管理室（研究リスクマネジメント室）によるヒアリングを実施します。この結果により、提案を受理できない可能性がありますので、ご承知おきください。

安全保障管理に関する情報は下記リンクの本学ウェブサイト「安全保障管理（学内専用）」をご参照願います。 <https://www.tuat.ac.jp/i-campus/anpo/>

### 12. フォローアップについて

- チームリーダーは、年度毎に GIR が指定する様式でチームの進捗状況報告をお願いします。必要に応じてヒアリング調査を実施させていただく事があります。
- 支援期間終了後も、最低5間はフォローアップ調査にご協力をお願いします。

### 13. その他

GIR では若手研究者育成、国際共同研究推進、質の高い研究成果の発信による本学のプレゼンス向上といったミッションを達成すべく、以下のような支援を実施しています。

- ・ 国際共著論文 APC 支援
- ・ 若手研究者の海外渡航
- ・ など

詳細は GIR ウェブサイト <https://www.tuat-global.jp/> をご参照、もしくは研究総括・国際係までお問合せください。

**【担当・問い合わせ】**

研究総括：リスクマネジメント課 研究総括・国際係

内線 5646 Email: [girjim@cc.tuat.ac.jp](mailto:girjim@cc.tuat.ac.jp)

ARC チーム公募に関する URL <https://www.tuat-global.jp/>

## ARC チーム公募に関する Q&A

### 【ARC チームの概要について】

Q1：従来の GIR 戦略的研究チームとの研究計画・体制・目的の違いはありますか。

A1：国際共同研究関係の構築だけではなく、チーム内協力体制構築による個別教員の研究活動に専念する期間（数ヶ月間単位）の捻出も目的としています。そのため、教育運営業務協力のための同部門・専攻・学科を中心としたチーム編成となることを想定しており、農工融合の体制は困難と思われれます。教育運営業務の協力だけではなく、国際共同研究（ARC 教員派遣＋外国人研究者の招聘）を複合した研究チーム体制の構築についても積極的な提案を期待しております。

Q2：“ARC” とは何ですか。

A2：本事業は従来の GIR 戦略的研究チームに個別教員の研究キャリア強化の機能を付加して、研究活動の高度化を目的としています。「研究活動高度化のための戦略的研究チーム」を英訳した “Strategic Research Teams for Advanced Research Careers” から頭文字を抜粋し、本事業の研究チームを「ARC チーム」としております。また、本事業での海外派遣支援により研究キャリアの強化を図る教員を「ARC 教員」としております。

Q3：ARC 教員の年齢制限はありますか。

A3：明確な年齢制限は設けていませんが、「博士後期課程修了後 20 年程度以内」としてあります。

Q4：チームメンバーが脱退（退職・転籍）した場合はどうなりますか。

A4：研究計画の継続性を鑑みて、継続可能であれば学内教員を追加してチーム活動を継続してください。ただし、メンバー変更含め大きな研究計画・チーム概要変更の場合は GIR 運営委員会の審議を要します。

Q5：チームリーダーと ARC 教員を兼ねることはできますか。

A5：兼ねることは可能ですが、“チーム総括の役割を担うチームリーダーが別途存在するチームと同様に ARC 教員が海外派遣期間中に研究に専念できるチーム体制構築と運営が可能である” という点について提案様式内に記載してください。

### 【外国人研究者と来日（雇用・招聘）の条件について】

Q6：外国人研究者は外国籍で日本に居住している者でもよいでしょうか。また、日本国籍で外国に居住している者でもよいでしょうか。

A6：外国人研究者とは「海外の研究機関に所属している研究者」となります。すなわち、外国籍でも日本の研究機関に所属している場合は含まれません。日本国籍でも海外の研究機関に所属して海外を本拠地としている場合は含まれます。

Q7：外国人研究者の職位の目安はありますか。

A7：原則として本務先の職位と H-index に基づいて審査します。H-index の職位別目安はスーパー教授：40 程度、特任教授：30 程度、特任准教授：15 程度となります。ただし、各研究分野において状況や基準の差があるため、あくまで参考目安程度とお考えください。

Q8：外国人研究者に内諾をとる必要がありますか。

A8：提出された提案書をもとに ARC チームの選定が行われます。選定された場合に、外国人研究者を提案書のとおり、雇用もしくは招聘することができるよう、あらかじめ確認しておくことが必要です。

Q9：外国人研究者を雇用した場合の勤務形態について

A9：外国人研究者は裁量労働制となります。

Q10：連続 31 日以上連続雇用が難しい場合は、どのように対応すべきでしょうか。

A10：来日期間が連続 31 日に満たない場合は、招へいの手続きとなります。招へいの場合は雇用と比べて、報酬（謝金）の基準単価が相応に低減することとなります。

Q11：外国人研究者の短期招聘は可能ですか。

A11：滞在日数 14 日未満の招聘は原則不可です。やむを得ない事情で、短期招聘する場合には「理由書」を提出いただき、GIR 運営委員会の承認が必要となります。

#### 【外国人研究者の招聘経費について】

Q12：外国人研究者の人件費、旅費、滞在費について上限はありますか。

A12：1 チームあたりの外国人研究者の人件費、旅費及び滞在費の総額は 5,000 千円を上限とします。ただし、外国人研究者招聘による特筆すべき効果が見込まれる場合、GIR 運営委員会の審議により予算枠を超過することも検討します。

Q13：外国人研究者を招聘するための旅費は実費で支出することが可能ですか。

A13：招聘するための旅費は、原則、実費支給となりますが、1 チームあたりの上限額内で運用していただくことになり、予算残額によっては制限する場合があります。

#### 【外国人研究者の来日（雇用・招聘）中の行動について】

Q14：雇用の途中に海外の国際会議に参加する場合、雇用は途切れますか。

A14：雇用期間中に GIR 用務として国際会議に参加される場合、雇用は途切れません。

Q15：外国人研究者の雇用期間中、国内出張、海外出張の制限はありますか。

A15：雇用期間中の国内・海外への出張の制限はありません。（出張の用務内容は GIR の研究活動に関する用務とし、その旅費はチームに配分する研究費から支出いただきます。）

Q16：外国人研究者が土日祝日を利用して母国へ帰国し、平日は日本へ戻って勤務することは認められますか。

A16：土日祝日を利用した場合については制限を設けておりませんので、雇用期間中の勤務に支障がなければ問題ありません。ただし私事での往復ですので、往復旅費は外国人研究者の自己負担となります。

#### 【ARC 教員の海外派遣について】

Q17：派遣期間は年度を跨ぐことは可能ですか。

A17：各教員への支援を 600 万円上限としていること、及び予算の年度繰越ができないことから、1 人/年、年度内出発帰国を原則とします。原則から外れる計画を立てる際は、事務局にご相談ください。

Q18：当初計画と変更して ARC 教員の派遣順（年度）を入れ替えることは可能ですか。

A18：チーム研究計画遂行及び派遣期間中の業務サポート体制に支障がない場合は、派遣の順番（年度）を交代することが可能です。当該年度の派遣が始まるまでに GIR 運営委員会の承認が必要となりますので、計画変更についてお早めの申し出をお願いします。

Q19：海外渡航支援費（600 万円）の用途は、サバティカル（3 カ月～1 年の海外派旅費）に直接関係する旅費に限りますか？海外派遣中に必要な消耗品費や、派遣前に受け入機関との打ち合わせを行うための海外出張費にも使用できますか？

A19：海外渡航支援費（600 万円）は、原則サバティカルに直接関係する費用（（3 カ月～1 年の海外派遣旅費、受入機関のベンチフィー含む））に使用してください。海外派遣中に必要な消耗品費、事前打ち合わせのための海外出張費等については、別途配分される研究費（200 万円）から支出をお願い

します。

#### 【教員業績評価について】

Q20：本チームへの採択による教員業績評価に影響はありますか。

A20：本チームは教員業績評価における評価項目「Ⅱ研究業績／8. 研究プログラム等への参画」の対象プログラムとなります。また、本チームはバイアウト制度ではないため、派遣中の ARC 教員の講義・演習・実験を代行した場合は代行教員の業績となります。（評価項目「Ⅰ教育業績／6. 授業等担当（教養科目等）、7. 授業等担当（専門科目等）」）

#### 【特任助教について】

Q21：特任助教の給与・勤務条件を教えてください。

A21：給与は、本人の学歴・職歴を勘案の上、本学の規定により決定します。採用時の肩書を含む勤務条件等については、本学の就業規則・給与規則等が適用されます。

試用期間：原則 3 か月  
就業時間：8 時 30 分～17 時 15 分  
時間外労働：時間外勤務 あり  
休憩時間：60 分  
休日：土曜日、日曜日、祝祭日、5 月 31 日及び 12 月 29 日～1 月 3 日  
賃金：月給 440,000 円以上（学歴・経験年数による）【年俸制】  
加入保険：労災保険、雇用保険、健康保険、厚生年金保険

Q22：特任助教は GIR で公募してもらえるのですか。

A22：原則公募となりますが、チーム運営や分野等を鑑みて内定チーム教員からの採用予定者を上申いただくことが可能です。ただし、教員採用は GIR 運営委員会の承認事項ですので、GIR 運営委員会で採用候補者の審議を行います。

Q23：チーム活動開始より早く、もしくは活動期間を超過して特任助教を採用することは可能ですか。

A23：チーム活動に紐づけて人件費予算を準備しているため、チーム活動期間の範囲内での採用となります。特任助教が退職した場合、後任者は活動期間末日までの任期での採用となります。

Q24：特任助教は海外派遣できますか。

A24：特任助教は ARC 教員の海外派遣を円滑に行うためのチーム体制の一員として採用しており、長期の海外派遣はできませんが、チーム運営に差し支えない範囲・期間では可能となります。チーム支援予算とは別途で実施する GIR の若手研究者海外派遣支援制度をご利用ください。

#### 【国際共著論文について】

Q25：外国人研究者との共著論文の所属と謝辞の記載例について教えてください。

A25：国際共著論文における所属の記載についてチーム構成メンバー（本学教員、GIR雇用の海外研究者）についてご所属欄にGIR 機関名を併記下さい。

Institute of Global Innovation Research, Tokyo University of Agriculture and Technology, #機関の住所（府中または小金井）は、研究室ご所属の住所をご使用下さい#謝辞欄等の記載例は下記のとおりです。

例1: This work is partly supported by Institute of Global Innovation Research in TUAT.

例2: This project was supported by Institute of Global Innovation Research in TUAT.

Q26：国際共著論文の投稿費用支援はありますか。

A26：本学のAPC支援及び割引については図書館ウェブサイト  
<https://www.library.tuat.ac.jp/support/apc> にてご案内しております。

Q27：国際共著論文を投稿する予定です。Q1 ジャーナルの確認方法を教えてください。

A27：投稿予定のジャーナルがQ1に該当するかの確認方法についてはClarivate社のクイック・レファレンス・ガイド（下記リンク）をご参照ください。

[https://clarivate.libguides.com/ld.php?content\\_id=71858228](https://clarivate.libguides.com/ld.php?content_id=71858228)

#### 【研究基盤経費について】

Q28：研究基盤経費は、どのようなことに使えますか。

A28：ARC チームの研究活動、成果に繋がることに広く使っていただけます。例えば国際共同研究、国際共著論文につながる教員や学生の出張費、ARC 教員が担当する教育研究・運営業務の補助に必要な経費にも使用可能です。

#### 【その他】

Q29：ARC教員を4名以上とする計画は認められますか。その際、外国人研究者人件費・赴任旅費・滞在費（5,000千円/年）、特任助教人件費（6,860千円/年）やチーム研究基盤経費（2,000千円/年）をARC教員海外渡航支援費に流用することは可能ですか？

A29：ARC教員を4名とする計画は可能です。ただし、各年度の海外渡航支援費総額（6,000千円/年）を越す場合は、特任助教人件費（6,860千円/年）あるいはチーム研究基盤経費（2,000千円/年）を流用する計画を示してください。また、ARC教員の派遣は、年度内出発帰国を原則とし、期間は必ず3か月～1年間となるようにしてください。

Q30：ARC教員の海外派遣実施にあたり、所属部局内で事前にどのような調整が必要になりますか？

A30：ARC教員の担当状況にもよりますが、以下の調整が必要となります。事前に、所属部局の担当事務に確認の上、チームリーダー・ARC教員間で対応をご検討ください。

（例）

- 担当している授業に関すること
- 担当している指導学生に関すること（緊急確認が生じた場合の対応や指導教員の確認が必要な件の対応、TA・RA等の勤務管理等）
- 顧問になっている部・サークル活動に関すること
- 予算執行・管理に関すること
- 委員を務めている各種委員会（代理や委員の交代等）
- 雇用している事務補佐員等の勤務管理に関すること
- その他緊急対応に関すること（法令点検等で研究室等へ入室する際の許可等）

Q31：テニュアトラック教員・キャリアチャレンジ教員はARC教員として応募できますか？

A31：可能です。ただし、必ず申請前に所属部門長やメンター教員にご相談の上、了解を得てください。（申請書様式の該当欄にもチェックをいれてください。）

Q32：海外派遣中の給与は通常通り支給されますか？

A32：海外派遣にあたり、諸手当のうち、支給要件を欠くものについては支給されません。詳細については、個別に人事課にご相談ください。